

神ギ協

神奈川ギター協会

〒251-0045

藤沢市辻堂東海岸 3-9 FW310

川俣ギター教室内

Tel & Fax. 0466-36-7421

2018/7/15 発行

(編集責任者) 岩木俊宏

第47回神奈川新人ギタリストオーディション

2018年6月17日(日)神奈川県横浜市磯子区民センター「杉田劇場」 神奈川ギター協会主催

写真とレポート: 川俣 明



入賞者と入選者

2018年6月17日(日)神奈川県横浜市磯子区民センター「杉田劇場」で第47回神奈川新人ギタリストオーディションが開催された。今回は昨年度の次点入選者(予選は免除される)1名を含む44名の応募者総数があり、4年ぶりの40名超という盛況であった。残念ながら当日3名の棄権者が出て、予選は総計40名で行われた。また今回も昨年に続き、ゲスト審査員として月刊「現代ギター」誌の編集長の渡邊弘文氏に、予選・本選共に審査に加わって頂いた。審査員室でも、また表彰式の講評に於いても、ギター専門誌の編集者という観点からの貴重な御意見を頂けたように思う。12時30分に開始された予選では、課題曲のM.カルカッシ作曲の練習曲Op. 60-3と各自が登録した3分以内の自由曲を演奏し、審査された。集計の結果5名が予選を通過し、本選へと進んだ。

予選はかなりハイ・レベルの演奏が続き、本選のレベルの高さが期待された。しかし、そのぶんテクニックでの小さな破綻や、何がしかの欠点を感じられた奏者には厳しい結果となった。年齢の高い世代の奏者で、実に潤いのある味わい深い演奏をして、是非本選に出場して演奏を聞かせて欲しいと思われる奏者が何人も居たが、僅かな綻び(ほころび)で果たせず、残念にも思えた。課題曲は本選前の西本悦子副委員長の講評にもあったとおり、ポジションを移動する前のアルペジオの最後の音を端折ってしまったり、移動した直後の低音絃の音をビリつかせてしまったり、拍節に意識の行き届かないのか妙なアクセントが付いてしまったり、高音のメロディーと伴奏部のバランスに配慮が行き届かなかつたりと、このような問題で予選通過を逃した者は、次回は細かい部分の完成度を上げるなど、十分な対策を講じて参加して欲しいものだ。最終的には課題曲を確実に演奏し、自由曲では確実さはもちろん、表現意欲を明確に出せたものが本選に進んだ。

本選では課題曲の A. バリオス作曲のクリスマスの歌と、各自が登録した6分以上10分以内の自由曲を演奏した。残念ながら1名が指定の楽譜と異なるものを使用して失格となってしまった。本選の採点は80点を合格の目安とし、上下10点ずつの幅を持たせて採点し、平均点を出して判定する方法を採った。結果、平均点で合格点を得た2名が、他の3名の得点に少し大きく差をつけての入賞合格となった。

以下に本選の演奏順に結果と評を記す。

1. 上阪 泰浩 (こうさか やすひろ) <失格>

予選自由曲：練習曲第8番 (H. ヴィラ=ロボス)

本選自由曲：セビリア風幻想曲 (J. トゥリーナ)

課題曲で指定以外の楽譜を用いたと思われるため失格となってしまった。そのため採点もされないう結果になったが入賞合格できる実力を十分に備えた優れた奏者なので、次回と今後を期待したい。課題曲の問題の箇所はハーモニクスでメロディーを奏する箇所で、ここが単に開放絃を奏するだけの楽譜を用いないようにという楽譜指定であったのだが、要綱にはもっと注意を払うべきであった。課題曲、自由曲を通して音色の選び方、歌い回し、キレのあるテクニックは申し分無かったが、欲を言えば弱音の透明度に今一つの工夫が望まれた。

2. 石川 一美 (いしかわ いつみ) <入選・次点>

予選自由曲：昨年次点により予選免除

本選自由曲：情熱のマズルカ、最後のトレモロ (A. バリオス)

課題曲は、いくぶん含みのあり過ぎる音色ではありながら歌い回しが上手く、十分に雰囲気を与えたと言えよう。しかし音色の多彩さという面でみれば不満の残る点も見受けられた。余計な物言いかもしれないが、強く個性の感じられる他人と違った一段上の表現にするには、どうすれば良いのか考える段階にきているのではないだろうか。自由曲もバリオスで全てバリオスのプログラムになってしまって、曲毎の変化に苦勞をしたのではないだろうか。マズルカというのは良く理解しないとリズムの取りにくいものだが、歌い口は今一つ重くて課題曲からの雰囲気を引きずってしまった。「最後のトレモロ」はトレモロ奏法に小さな破綻があった後、表現が少し小さくなってしまった。繊細な美しいトレモロの技術は充分なのだが、旋律を如何に思い出深く感動的に表現するかという課題は残ったと思う。

3. 鳥羽 こまい (とば こまい) <入選>

予選自由曲：前奏曲ホ長調 (M.M. ポンセ)

本選自由曲：大聖堂（A. バリオス）

若い奏者がこの課題曲をどう処理していくのか興味をもたれたが、雰囲気醸し出すというよりは、あっけらかんと素直に演奏が始まった。ハイポジションの感情を込めて歌わせてみたくなる箇所も簡素な感じで通り過ぎる。それでいて退屈する演奏かというのと、そのようなことは無く、むしろ爽やかさが印象に残った。自由曲の冒頭の部分でも「悲しみ・宗教的」というよりは淡々と早いテンポで曲は進んでいく。2楽章では和音の移動にやや重さを感じさせたものの、やはり淡々と演奏は進み、3楽章では豊かな音量とテクニックで演奏が繰り広げられ高得点が期待されたが、どうしたことか一瞬止まってしまい、その後は動揺が残ったのか少し不本意な演奏になってしまったと思う。良い意味で独特の感性を持った奏者である。今後の成長を期待したい。

4. 大高 佑介（おおたか ゆうすけ）＜入賞・合格＞

予選自由曲：「カヴァティーナ組曲」よりスケルツィーノ（A. タンスマン）

本選自由曲：「内なる思い」より第1番、第2番（V. アセンシオ）

課題曲ではポジションを変更したりして歌い方に工夫はしているが、和音の音程にはもう少し注意を払って貰いたいところだ。ハイポジションで歌い切るところは、更に美しい音色も期待したい。全体に音色的にはやや単純さを感じさせてしまったが、それでも良い雰囲気を持った演奏だった。自由曲は表現の難しい曲を良く理解した演奏だった。それでもアセンシオの音楽を考えた時、強奏する和音が少し荒っぽくなってしまったのは、やや不都合であったのではないだろうか。感性の鋭い十分な素質を感じさせる奏者であるが、更なる深い表現、完成度の高い演奏を期待する。

5. 高橋 ひまり（たかはし ひまり）＜入選＞

予選自由曲：練習曲第一番（H. ヴィラ=ロボス）

本選自由曲：アストゥリアス（I. アルベニス）

課題曲は落ち着いた雰囲気で始められたが、アウフタクトの音符を長く延ばし過ぎたり、また、歌心とは違うテンポ・ルバートも少し目に付いた。重音、和音の音程は良くとれているが、残念ながら決して美しい音色ではなかった。年齢的にバリオスの音楽とは何かスッキリしないものが残ったのではないだろうか。自由曲は出だしから曲の雰囲気を良く表現し、クレッシェンドからの盛り上がりなど見事なものだった。しかし6絃の調弦が狂ってきたのが気になったのか、中間部の歌い方はなどは少し持て余し気味になってしまった。ここでもいくつかの音符を延ばし過ぎるという箇所があり、すこし気になった。狂った絃をサッと直して演奏を続けるのも芸のうちである。予選の自由曲の時の「天馬空を行く」みたいな颯爽とした演奏に比べると、やや荒れ気味の演奏に感じられてしまっていて残念だった。

6. 深沢(ふかざわ みなみ)＜入賞・合格＞

予選自由曲：特徴的舞曲（L. ブローウェル）

本選自由曲：南のソナチネ（A. バリオス）

課題曲は曲のとらえ方が明瞭で、重音もよく調和しており、歌い直しにも余裕がある好演だった。欲をいえばあと少し「しっとり感」みたいなものが欲しいような気がするが、これはこれで良い意味で、爽やかな若さの感性であるように思える。ミスというまでには至らないかもしれないが、このような曲では細かい部分のビリつき音にも注意を払いたい。自由曲は速めのテンポと、たっぷりの音量、美しい音色で始められたが、強奏される和音には更なる美しさが求められる。2楽章はど

ちらかといえば淡々とした演奏だった。もっと濃厚な演奏も考えられるかもしれない。3楽章も力とスピード感で押し切る、爽快感のある演奏だったが、後半、少し疲れが出たのか、僅かながら弾き切れていない音符がいくつか見られた。今後は長時間の演奏にも体力の配分を工夫するなどして、ステージ全体を通して、より完成度の高い演奏を目指してもらいたい。

入賞者インタビュー

(インタビュー:橋爪 晋平)

深沢 みなみさん

ー オーディションを終えて、感想などお聞かせください。

深沢：. 楽屋で緊張していました。楽屋では2倍くらいの遅さで弾くように意識して準備していました。予選では会場の音の響きを確認しながら一音一音弾きました。

ー 使用ギターを教えてください。

深沢：. 先生にお借りしたジャン・ピエール・マゼです。

ー 先生はどなたですか？

深沢：藤澤和志先生です。数日前には大きなホールでレッスンをさせていただいて、本番では落ち着いて演奏できました。今回の合格は先生のおかげです。何から何まで面倒見ていただき感謝しています。

ー 次の目標を教えてください。

深沢：つぎに控えている重奏コンクールや演奏会など、目の前のことを一つずつ頑張っていきたいです。

大高 佑介さん

ー オーディションを終えて、感想などお聞かせください。

大高さん：今回3回目の挑戦でした。コンセプトとして準備してきたことは、“指がもつれても音楽の世界を壊さないように”ということ。それがある程度うまくいったので、それなりの満足感があります。

ー 使用ギターを教えてください。

大高さん：ホセ・マリン・プラセロです。

ー 先生はどなたですか？

大高さん：坂場圭介先生です。先生、作戦が成功しました。助言をありがとうございました。

ー 次の目標を教えてください。

大高さん：音楽をもっと楽しむように、音楽性と技術を上げていきたいです。コンクールでもコンサートでも同じように弾けるようにしたいです。

本選採点表

47回 オーディション本選結果

演奏順	氏名	川俣	西本	石田	渡邊	井上	岩木	齊藤	志田	高久	多治川	橋爪	藤澤	堀井	前場	合計	平均点	合否	
1	上阪泰浩	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	失格
2	石川一美	77	81	78	78	82	79	77	80	86	76	85	80	77	80	1116	79.71	入選	
3	鳥羽こまい	81	77	79	77	80	77	79	77	80	81	82		79	83	1032	79.38	入選	
4	大高佑介	78	80	82	80	77	78	80	82	87	80	90	82	78	81	1135	81.07	入賞	
5	高橋ひまり	76	79	80	79	78	72	74	78	84	79	83	76	76	79	1093	78.07	入選	
6	深沢みなみ	80	82	81	81	83	80	88	84	88	78	86		80	82	1073	82.53	入賞	

*空欄は師弟関係により点数を入れない

●新入会員のお知らせです。

深沢 みなみさん、大高 佑介さん、が入会されました。

●イベント報告

☆総会

2018年2月12日(月)、神奈川ギター協会の総会が横浜技能文化会館特別会議室で開かれました。



2018年度神奈川ギター協会総会

☆神奈川ギターフェスティバル 2018

2018年3月25日(日)神奈川ギターフェスティバル 2018 が神奈川県横浜市磯子区民センター「杉田劇場」で開催されました。

今年のフェスティバルも神奈川のギター愛好家や協会会員の演奏、前年のオーディション合格者のお披露目演奏などヴァラエティに富んだ内容で、大いに盛り上がりました。

☆ Summer Festival 神奈川ギター協会員によるサマーフェスティバル

2018年7月8日(日) Summer Festival 神奈川ギター協会員によるサマーフェスティバルがみなとみらいホール小ホールで開催されました。

会員によるソロ、デュオ、トリオ、カルテット、アンサンブルが演奏され、大盛況のうちに終わりました。

●委員会から

2019年第48回神奈川新人ギターオーディション課題曲が決定しました。

予選課題曲は F. ソル作曲／ワルツ ホ長調 op. 32-2

本選課題曲は L. ブローウェル作曲／11月のある日

●暑気払いのお知らせ

毎年恒例の暑気払いを8月15日（水）17時より行います。出席希望の方は委員長または副委員長までご連絡ください。

●コンサート案内をリアルタイムで紹介しています。神奈川ギター協会のホームページを訪れて下さい。→<http://kanagawaguitar.sakura.ne.jp/> またはパソコンをお持ちのお弟子さん、御友人にお尋ね下さい。ホームページへのコンサート案内掲載は森淳一委員に電子メールで御知らせ下さい。尚、掲載は会員の関係するコンサートに限ります。

編集後記:今年気温が40℃を超えるとか超えないとか…猛暑のようです!体調管理にはくれぐれも気をつけましょう!(岩木)